

2025年度

学年	教科	科目	単位	担当者
3	外国語	English Conversation	1	Perry・井原・山浦・増村
The aim of this Course	The aim of this course is for students to get used to speaking by producing as much output as possible and practice for Eiken.			
Overview of the Course	Using a sample card, students practice doing the whole exam in pairs, without any input from teachers. This allows students to try answer using the language skills they currently have and teaches them to actively produce language to complete a task. Break exam up into sections, using each subsequent lesson to focus on 1 or 2 sections at a time to allow students enough time to become familiar with each section. Elicit answers from students and highlight any “exceptional” responses. Provide model answers to students with explanations. Students can then compare their answers with model to notice what changes they need to make to improve. Students practice in pairs (and new pairs) to apply what they have learned.			
Consideration	In preparation for the exam, it is important to give students as much time as possible to practice speaking. Pairwork is probably the most efficient use of time. Teacher speaking time should be minimized and done to introduce tasks, explain important points, or give advice and feedback.			
Tests & Exams	In-Class test			
Textbooks	Digital materials sent through Google Classroom			
Supplementary Materials	iPad			

授業の計画

Term	Month	Schedules	Contents
1	4		Eiken Practice Grade pre 2nd
	5		Eiken Practice Grade 2nd
	6	Mid term exams	
	7	Final Exams	Conversation practice with certain topics
2	9		Conversation practice with certain topics
	10		
	11	Mid Term Exams	
	12	Final Exams	
3	1	No class	

[illegible][illegible]

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	保健体育	体育	進学文系	3	体育科教員
教科書	現代高等保健体育体育編				
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考查	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点＝100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点① 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる。				
	観点② 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
	観点③ 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
図書資料の活用	必要に応じて授業で提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	現代高等保健体育	○オリエンテーション (新学期・実技指導・内容説明) ○新体力テスト 【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。 【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。 【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。 【柔道】 ・実技指導、内容説明、受身・寝技 ※実技テストも行う。
	5		
	6		
2	7	現代高等保健体育	
	9		【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。 【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。 【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。 【柔道】 ・実技指導、立技 ※実技テストも行う。
	10		
3	11		
	12		
	1		
	2		
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	世界史探究	進学文系	3	内田
教科書	【世探704】詳説世界史 山川出版				
副教材	山川 詳説世界史図録 第5版（世探704準拠） 世界史探究 詳説世界史 授業用 整理ノート（世探704準拠）				
評価基準	観点① 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
	考査 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	評価 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 授業で学んだ歴史的出来事について理解ができているか。				
	観点② 資料・史料やデータなどから複数の根拠をもって問いに答えることができる。				
	観点③ 授業への姿勢や協同作業など自ら前向きに動くことができる。				
授業のねらい・進め方・注意点	近世以降の世界史の基礎・基本的な事項を学ぶ。 また、暗記ではなく、歴史に関する知識を深め、異なる地域を比較・関連付けて考察する力をつける。				
図書資料の活用	探究レポート課題や発表で参考文献として図書室にある書籍を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 副教材	2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容
	5		1 ルネサンス
	中間考査		2 宗教改革
			3 主権国家体制の成立
	5		4 オランダ・イギリス・フランスの台頭
	6		1 産業革命
	6	2 アメリカ合衆国の独立と発展	
	7	3 フランス革命とナポレオンの支配	
	期末考査		
2	9	教科書 副教材	1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動
	10		2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成
			3 アメリカ合衆国の発展
	中間考査		4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄
			1 西アジア地域の変容
	10		2 南アジア・東南アジアの植民地化
	11	3 東アジアの激動	
	期末考査	1 第2次産業革命と帝国主義	
3	冬講習		2 列強の世界分割と列強体制の二分化
	3 学期 特別 授業		3 アジア諸国の変革と民族運動
			1 第一次世界大戦とロシア革命
			2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国
			3 アジア・アフリカ地域の民族運動

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	地理探究	進学文系	3	野々村
教科書	『新詳地理探究』（帝国書院）、『新詳高等地図』（帝国書院）				
副教材	『新地理要点ノート』（啓隆社）				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書等に記載されている地理用語、国や山脈等の地形の名称を理解する。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 各種産業がなぜその国や地域で発達したのか、メカニズムを理解し、説明する。 食糧やエネルギー自給率の低さ、第一次産業労働人口の高齢化・減少など我が国が抱える様々な問題を理解し、説明する。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 自身の興味・関心と地理を結び付け、独自の学習成果を発表する。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ねらい> 大学受験に拘らず、グローバル社会を生きる現代人の教養たる地理を身につける <進め方> 板書を中心とした授業を展開し、適宜ICTを利用し資料を取り扱う。 <学習> 最低限の地理用語や国名および位置などは暗記すること。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	『新詳地理探究』 中間考査	第2章 資源と産業 1節 農林水産業 2節 食料問題
	5		
	6		3節 エネルギー・鉱産 4節 資源・エネルギー
2	7	期末考査	
	9		5節 工業 6節 第三次産業
	10		
	11		第3章 交通と通信 1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易
3	12	期末考査	
	1		
	2		
	3		

図書資料の活用

新聞や図書資料を授業内で紹介する。

--	--	--	--

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	論理国語	進学文系	2	具志堅・岩野・内野
教科書	『論理国語』(数研出版)				
副教材	『論理国語 準拠ワーク』(数研出版),『評論速読トレーニング2000』(数研出版)『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500 三訂版』(いっずな書店),『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いっずな書店)				
評価基準	観点① 知識・技能 語彙力・文章構成の理解(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解) 情報の扱い方を理解する。(情報の重要度による整理、推論)				
	観点② 思考力・判断力・表現力 文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業を聞く。与えられた課題、自分で発見した課題に取り組む。他者と協働して問題解決を図ろうとする。成果物を提出する。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	・自力で文章を正しく読解する力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や知識を深めていく。 ・漢字は考査と同じ範囲を中テストとして実施する。継続的に学習する。 ・隔週で『評論速読トレーニング2000』を実施する。				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1環境と心の問題	漢字範囲 TOP2500[p12~51](第1章) 論理的文章の理解
	5	速読①～③ 中間考査(5/21~)	
	6	2「文化が違う」とは何を意味するのか？ 3「いき」の美学 速読④～⑥	
2	7	期末考査(7/5~)	漢字範囲 TOP2500[p56~95](第2章Aランク)
	9	4「である」ことと「する」こと 速読⑦～⑨	漢字範囲 TOP2500[p98~137](第2章Bランク) 論理的文章の理解
	10	中間考査(10/14~) 5顔の所有	
	11	6人はなぜ働かなくてはならないのか 速読⑩～⑫	
3	12	期末考査(12/2~)	漢字範囲 TOP2500[p140~179](第2章Cランク)

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	文学国語	進学文系	2	堂所、宮城
教科書	文学国語（数研出版）				
副教材	準拠ワーク（数研出版）、小論速読トレーニング（数研出版）、読解を深める現代文単語（桐原書店）				
評価基準	観点① 知識・技能 漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身についていること。 作者名・成立年代・時代背景等の文学史的知識が身についていること。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 読解力を養い、文脈や筆者の伝えたいこと（作品テーマ）を的確に捉え、記述したり口頭で表現できること。 登場人物の心情を正しく読み取り、本文内容を理解すること。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ノートの内容に工夫があり、単元ごとのまとめをしっかりと行い、グループワークやペアワークに積極的に参加すること。また、読書に対する意欲を持つこと。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 語句等の知識（30点）、文学史等（10点）選択肢（接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等）（10点）				
	観点② 演習問題・記述式 （内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等）（50点）				
	観点③ 予習（5点）、感想・まとめ（5点）、 授業姿勢（ペアワーク等の姿勢も含む）（5点）、読書活動（5点）				
授業のねらい・進め方・注意点	・3つの観点を重視し、国語力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や常識を深めていく。 ・ペアワークやグループワークを積極的に行う。 ・授業冒頭の5分は読書を行う。				
図書資料の活用	必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1.『ひよこの眼』 山田詠美	平成の小説を読み、内容・構成・展開を捉える。
	5	中間考査	『読解を深める現代文単語』が範囲となる
	6	2.『檸檬』 梶井基次郎	大正の小説を読み、内容解釈し考えを深める。
	7	期末考査 ※小説速読トレーニングは順次行う	『読解を深める現代文単語』が範囲となる
2	9	4.『舞姫』 森鴎外	明治の小説を読み、内容解釈し考えを深める。
	10	2.『物語のおわり』 湊かなえ	文学的文章を読み、創作する。
	11	5.『物語のおわり』 湊かなえ	文学的文章を読み、創作する。
	12	期末考査 ※小説速読トレーニングは順次行う	『読解を深める現代文単語』が範囲となる
3	1		
	2		
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	古典探究	進学文系	4	下園・堂所・古賀
教科書	『精選 古典探究』大修館書店 3年次では主に「古文編・漢文編Ⅱ」を扱う				
副教材	・教科書準拠学習ノート ・古典の手引きおよび学習ノート ・精説漢文 昨年に引き続きとして ・漢文入門 ・古文単語330				
評価基準	観点① 知識・技能 古文：単語・文法・古典常識を身につけ、内容理解ができるようにする 漢文：単語・句法・歴史的背景を身につけ、内容理解につなげる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 現代語訳などができ、登場人物などの心情や作品の主題を理解する 作品がその後の文学に与えた影響を考える				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業ノートでは、予習・復習を表現し、工夫する。ワークは直しをしっかりと行う。 小テストでは高得点を目指し、授業内では積極的に話し合い発言する。 2学期に行うプレゼン発表では積極的に行う				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	1年次で学習した「言語文化」は、古文、漢文、近代現代小説から成り立っていた。「古典探究」では古文と漢文を深く学習する。古文や漢文を学習することで当時の人の感性を理解することができる。また、当時の人と現代人との感性を比較することで、われわれ現代人が当たり前と考えている感性を見直すことができる。そのためには、文法、単語、句形の知識を用いて、自力で現代語訳し、内容を理解する必要がある。授業では音読、ペアワーク、問題演習などの活動を通して、古文や漢文の解釈に必要な知識や技法を身に付けていく。それに伴い、スケールテストにも対応できる学力を身に付けていく。また3年次では『源氏物語』について探究を行う。2年次では触れる時間のなかった作品に触れることで探究を進めていく。1学期はスケールテスト対策として週4時間のうち2時間を教科書の作品、1時間を古典文法の復習、1時間を漢文句法の時間とする。				
図書資料の活用	岩波書店の『古典文学大系』などを用いて解釈の助けとする。教科書の同作品の別の部分を見て古典文学を味わう。解釈に関わる本を読む。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	ノートの取り方・受け方ガイダンス 『枕草子』 二月つごもり	・工夫の仕方、予習について説明 ・助動詞と係助詞と敬語の理解
	5	(GW課題：『古典の手引き』助動詞の復習) 『十八史略』水魚の交わり ※小テスト：古文敬語 【中間考査】 『源氏物語』若紫 『大鏡』鶯宿梅	・用言の復習、・随筆の理解 ・三国時代への理解 ・仮定・疑問の復習 ※古文単語：1-50.151-180 ・源氏物語についての理解・敬語の理解 ・大鏡についての理解・助動詞識別
	7	漢文：思想p318～ ※小テスト：漢文句法 ※小テスト：古典助動詞 【期末考査】	・諸子百家について学ぶ ※古文単語：51-150
2	9	『史記』列伝 刎頸の交わり 『蜻蛉日記』町の小路の女	・『史記』の理解・句法の復習 ・平安時代の婚姻の形式についての理解 ・和歌の理解
	10	※小テスト：古文助動詞・助詞 【中間考査】 『源氏物語』について ・須磨	※古文単語：181-280
	11	・源氏物語に登場する女性についてプレゼン ・紫の上の死 【期末考査】	・中国の歴史的背景について ・句法の理解 ・源氏物語の影響について ・敬語について ※古文単語：281-330
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	English Communication III	進学文系	4	田代・井原・山崎・増村
教科書	FLEX III English Communicaion III(増進堂)				
副教材	FLEX III Workbook Standard(増進堂) ターゲット1400(旺文社) レシピー(POLYGLOTS)				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材で扱った知識、表現を覚えている。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 教科書・副教材で扱った知識、表現を用いて類似表現を使える。 初見長文を時間内に正確に読める。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業中に音声活動やペアワーク活動に参加している。 授業の復習を行っており、授業で扱った表現を口頭でアウトプットすることができる。 レシピー等の課題に取り組むことができる。				
	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末計4回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	・ 予習は基本的に不要、復習を重点的に行う。その際、口頭でのアウトプットに重点を置くこと。 ・ 授業の流れは、単語学習→リスニング→リーディング→解説→音読（知識の定着）→音声でのアウトプット（2年次とほぼ同様）				
図書資料の活用	・ 授業で取り扱ったテーマと関連する書籍を読むことを勧める				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	FLEXIII	L1 Potential Uses of Optical Illusions L2 Expanding World Population
	5	FLEXIIIの長文読解演習	L3 What makes a Hit Song? (L3は長文読解演習)
	6	FLEXIII	L4 Visas for Life L5 How Have Butterflies Survived?
	7	FLEXIIIの長文読解演習	L6 Mr. Price Meets Jakuchū (L6は長文読解演習)
2	9	FLEXIII	L7 Sustainable Lifestyle of the Edo Period
	10		L8 Why Do We Lie?
	11	FLEXIII	L9 In Defense of Zoos L10 Eco-friendly Farming of Bluefin Tuna
	12	FLEXIIIの長文読解演習	L11 A Brief History of Humans (L11は長文読解演習)
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	論理表現Ⅲ	進学文理	3	田代・増村・伊藤
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression Ⅲ（桐原書店）				
副教材	五訂版 英語演習ノート GREEN版－英文法の定着－（数研出版） レシピ－（POLYGLOTS） チャンクで積み上げ英作文 Standard（三省堂）				
評価基準	観点① 知識・技能 チャンクのかたまりをとらえることができる。 教科書・副教材で扱った知識、表現を覚えている。 英検Writingの形式を理解している。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 構文を理解できている。 教科書・副教材で扱った知識、表現を用いて類似表現を使える。 英検Writingの形式に合わせて意見論述ができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 レシピのWriting課題に積極的に取り組んでいる。 授業で積極的に発言、参加をする。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	5/30（金）に一斉受験する英検2級に向けて、Writing（意見論述・要約）の演習を行う。レシピにて課題配布。 「チャンクで積み上げ」を最初の10分で解いて解説。1日1ページを目安に。 8/29（金）実施のスケールテストに向けて、「英語演習ノートGREEN」で基礎的な文法項目の反復演習を行う。				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	GREEN チャンクPart1ドリル1～12	1.文の種類 2.基本5文型 3.時制 4.完了形 5.助動詞
	5		
	5/21（月）～24（土）		
	6	GREEN チャンクPart2ドリル13～24	6.受動態 7.不定詞Ⅰ
2	7		8.不定詞Ⅱ 9.不定詞Ⅲ 10.動名詞
	7/5（土）～9（水）		
	9	GREEN チャンクPart3ドリル25～36	11.分詞 12.不定詞・動名詞・分詞 13.比較Ⅰ 14.比較Ⅱ
	10		
3	10/14（火）～17（金）		
	11	GREEN	15.関係代名詞Ⅰ 16.関係代名詞Ⅱ 17.関係副詞 18.仮定法
	12		
3	12/2（火）～5（金）		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	外国語 (英語)	英語演習Ⅰ	進学文理	2	田代・山崎・伊藤
教科書	なし				
副教材	CROSSBEAM Standard 1 英語総合問題集 標準編1 (EMILE出版) レシピー (POLYGLOTS)				
評価基準	観点① 知識・技能 授業内で扱った長文及び文法の問題を解くことができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 また授業で扱った問題の知識を用いて、類題を解くことができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 レシピーで配信された課題に積極的に取り組んでいる。				
考査・ 評価 方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業の ねらい・ 進め方・ 学習ア ドバイ ス	英語4技能(Reading・Writing・Speaking・Listening)を伸ばすツールは様々ある。この授業ではレシピーを用いて英検2級程度の問題演習を行う。英語をより良く理解し、自分の表現したいことを確実に相手に伝えるために、1年・2年次までに学んだ知識を再確認し、スケールテストや大学入試、英語検定等の各種試験で生徒が英語力を発揮できることを目標とする。そして、将来、大学やグローバル社会で生かせる英語力の土台作りを目指す。				
図書資 料の活 用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	CROSSBEAM Chapter1~4	授業内で配信されるレシピーの課題にも取り組む。
	5		
	5/21 (月) ~24 (土)		
	6	CROSSBEAM Chapter5~8	
2	7		
	7/5 (土) ~9 (水)		
	9	CROSSBEAM Chapter9~11	
	10		
	10/14 (火) ~17 (金)		
	11	CROSSBEAM Chapter12~15	
	12		
	12/2 (火) ~5 (金)		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	芸術	実用書道	3年進学	1	島田 一輝 佐藤敦子
教科書	・『きれいな文字の書き方』（書き込み式練習帳）宮澤正明 二玄社				
副教材	・硬筆筆記具 ・下敷きまたはファイル ・練習用ノート				
評価基準	観点① 知識・技能 ○用具・用材に関する知識を身につけ、その扱い方を理解する。 ○書道の歴史を通して現代の実用に適する技術とは何かを学習する。 ○字形の構成・用筆法を学習し、技術を身につける。 ○硬筆及び筆ペンの技術の違いを学習する。 ○楷書及び行書の技術の違いを学習する。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ○習得した技術を生かし応用して書くことができる。 ○文化祭の機会を有効に活用し、作品発表をする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ○授業に積極的に取り組もうとしているかどうか。				
	○字のうまさではなく、うまくなるという努力をしているかどうか。				
考査	実施しない				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1～3学期: 観点①50% + 観点②20% + 観点③ 30%				
テスト・ 評価の 内訳	観点① ○毎時間の課題提出及び、課題テストの点数。				
	観点② ○授業内で得た知識・技術を最大限活用できたか。文化祭での作品の鑑賞ができたか。				
	観点③ ○テキストを活用し、自主的に学ぼうという姿勢がみられるかどうか。 ○毎時間の課題提出及び、課題テストの点数。				
授業のね らい・進め 方・注意点	書道の実用に適う技術の習得とともに、丁寧な運筆による安定した心情を養うこと、さらに手書き文字特有の美を享受することで鑑賞眼も育てる。				
図書資料	「常用漢字書き方字典」等を参考にする。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	ガイダンス 【楷書の法則】 テキスト50～57頁 【楷書の法則】部分の組み立て テキスト50～57頁	実用書道の意義と持ち物等の確認 ・線対象に近い文字の整え方 ・偏と旁
		【楷書の法則】部分の組み立て テキスト62、63頁 【楷書の法則】内外の組み立て テキスト66、67頁 【楷書の法則】概 テキスト69、82、83頁	・冠と脚
	6	【楷書・筆ペン】 テキスト46、47頁 【楷書・筆ペン】 テキスト104～107 【学園祭展示用の作品制作】	○テスト実施「楷書」 二字、三字または四字熟語を決めて用紙に清書。
		【ひらがなの法則】 テキストひらがな部分 【漢字とひらがなの調和】 テキスト85、97頁 【履歴書を書く】	・字母を理解し、流れと骨格を意識する。 ○テスト実施「ひらがな」
2	9	【行書の法則】 【行書・筆ペン練習】 テキスト76～79頁 【のし袋を書く】 テキスト150頁	※筆ペンを使用
	11	【手紙文の練習】 【手紙を書く】	・手紙の基本構成 ・宛先を想定し、草稿を考えて練習 ・便箋に清書

2024年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴公民科	日本史発展	5		浅子・長津
教科書	『詳説日本史』(山川出版)				
副教材	『日本史重要語句Check List』(啓隆社)・『図説日本史通覧』(帝国書院)				
評価基準	観点① 知識・技能 用語や背景を知る。理解し、覚える。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問の答えを考える。資料を比較し、より適切な答えを探る。調べ考えたものを表現する。：我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 問の答えや、関連する用語、新たに生まれた問を粘り強く自ら調べ、考える。自分自身の学習を振り返り調整する。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
	考査 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	評価 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書・副教材・授業で出てくる用語の記述や短文の選択等				
	観点② 正誤判定問題・図や表、資料から読み取る問題・論述問題等				
	観点③※粘り強い取り組みを行おうとする側面、自らの学習を調整しようとする側面 普段の授業への取り組み・提出物・長期休みの課題等				
授業のねらい・進め方・注意点	ねらい・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 進め方・注意点・学習者は、自ら調べ、考え、判断し、行動する力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学びに向かう態度)を身につける。「日本史で学ぶ」を意識する。・学習者は、多様な人と協力し、課題を乗り越えていく力を身につける。(協調性やリーダーシップ等)・学習者は、良識ある大人として行動する。				
図書資料の活用	・授業に関連する図書室資料を紹介する。 ・赤本を紹介する。 ・課題で、書籍や新聞を活用する。				

授業の計画

※実際の進度は前後する可能性がある。

学期	月	教材	内容
1	4	教科書	第9章 幕藩体制の成立と展開
		副教材	
	5		第10章 幕藩体制の動揺
	5		第11章 近世から近代へ
	6		第12章 近代国家の成立
2	7	期末考査	第13章 近代国家の展開
	9	教科書	第14章 近代の産業と生活
	10	副教材	第15章 恐慌と第二次世界大戦
	10	中間考査	第16章～第18章 文化史 問題演習
	11	期末考査	
3	1		
	2		
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地公	政治経済	進学文系	3	黒羽・今井・脇本
教科書	詳述 政治経済				
副教材	詳述 政治経済 演習ノート				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書の基本用語を中心に現代社会を理解するために必要な知識を身につけている。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 基本用語を知識として身につけるだけでなく、そうした用語が現代社会の中で、どのように使われているかを知り、自らも表現方法として使用できている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 社会での出来事に対し、興味関心を持ち、自らも社会の一員として生きる自覚を持てている。積極的に授業に取り組んでいる。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 定期考查による				
	観点② 定期考查による				
	観点③ 課題提出や内容、授業への取り組み姿勢				
授業のねらい・進め方・注意点	基本用語の知識の習得を基本とし、単なる取得だけに終わらずに、現代社会の諸問題を理解し、自らの考えや意見を持てるようになることを目指す。授業では、講義形式だけでなく、グループワークやグループ討論なども取り入れて、主体的に思考を深められるようにしていく。				
図書資料の活用	適宜紹介する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	教科書 演習ノート	第1章 経済社会の変容 1 経済活動の意義 2 経済社会の形成と変容
	5月		第2章 現代経済のしくみ 1 市場機構 2 現代の企業 中間考查
	6月		3 国民所得と経済成長 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ 期末考查
2	9月	教科書 演習ノート	第2章 現代の国際経済 1 商品資本の流れと国際収支 2 国際経済体制の変化 3 グローバル化と世界金融
	10月		4 地域経済統合と新興国の台頭 中間考查 第3章 現代経済と福祉の向上 2 日本の中小企業と農業 5 労使関係と労働条件の改善
	11月		6 社会保障の役割 期末考查

[illegible]

3 年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	3 年次では、以下を重視して実施。 2年次からの個人探究を引き続き行い、深め論文にし、発表する。 進路探究を通じて自分を理解する。 一学期 志望理由書の作成、個人探究の継続 二学期① 論文にしたものを踏まえスライドにする 二学期② 全員発表する
教材 教具	□ iPad (Classroomの連絡が確認できる端末) □ マイナビテキスト「探究の進め方」 □ 昨年度から使用している探究ノート □ その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	志望理由書を作成し、進路探究をする。個人探究を継続する
	授業の流れ（概要） 1．志望先学校について深く知る 2．志望理由書の書き方を学ぶ 3．志望理由書を書き、添削を受ける 4．2年3月の発表をさらに発展させるよう個人探究を継続する 5．論文の書き方を学ぶ 6．論文を作成する
夏休み	スライドの作成
二学期	前半 スライドを作成し、周囲からアドバイスを受ける 後半 スライドを用いて発表する
	授業の流れ（概要） 1．夏休みの計画したようにスライドを作成する 2．スライドをも用いて発表する 3．発表について評価を受け、改善する 4．他学年に代表者が発表する

三学期	
-----	--

注意	
基本	・中間発表での反省を生かし、個人探究のテーマ・内容を深める ・探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 ・大学進学後に必要となる論文作成やプレゼンを経験する ・ループリックを意識した行動を心がける。 ・調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。 ①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。 ⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。 ⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。	
注意事項	評価指標
個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。	協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。